

熊本市小学校運動部活動社会体育移行支援モデル事業（報告）
【概要版】

平成29年3月

熊本市小学校運動部活動社会体育移行支援モデル事業

1 目的

教育大綱の重点的取組のひとつである「教員が子どもと向き合う時間を確保」することで、いじめや不登校対策、授業の教材研究や学習指導を充実させるため、教員の負担と言われている小学校運動部活動の社会体育移行について、課題の抽出及び検証を行う。

2 実施期間

平成28年12月27日～平成29年3月31日

3 委託先

特定非営利活動法人 ひとつづくりくまもとネット

4 内容

熊本市立小学校における運動部活動の社会体育への移行にかかる業務

- (1) 小学校運動部活動への指導者派遣業務
- (2) 社会体育移行に向けた相談業務
- (3) 社会体育移行へ向けた課題抽出アンケート調査業務

5 報告

- (1) 小学校運動部活動への指導者派遣業務

① 実施期間

平成29年1月13日～3月31日

② 派遣実績

ア 派遣できた学校及び競技

- ・熊本市立帯山西小学校 野球部

実施回数 27回（1月6回、2月11回、3月10回）

イ 派遣ができなかった学校及び競技

- ・熊本市立麻生田小学校 バスケットボール部
- ・熊本市立帯山西小学校 バスケットボール部
- ・熊本市立五福小学校 剣道部

※事業計画時に予定されていた4校のうちイに記載した3校については、熊本市スポーツリーダーバンクに登録されている指導者との調整がつかず、他に派遣できる外部指導者もいなかったため、派遣を行っていない。

③ 課題及び分析

熊本市のスポーツリーダーバンクには、多くの種目で指導者が登録されているが、平日の夕方に活動する部活動への指導は難しい。土曜日や日曜・祝日であれば可能という状況である。

小学校の運動部活動を社会体育へ移行することを検討するにあたり、学校としても地域から指導者を探そうとされているが、地域の情報や状況がわからないため、どのように探せばいいかわからないとのことであった。

これらのことから、各学校で開催される「運動部活動検討委員会（仮称）」に地域の方々を委員に加えるなど、地域との連携や情報の共有を行っていくことで、地域の指導者を見つけることできるきっかけになるのではないかと考える。

（２）社会体育への移行相談への対応

① 実施期間

平成２９年１月１２日～１月２３日

② 対象校

実施日	学校名
１月１２日	春竹小学校
１月１３日	帯山西小学校
１月１６日	力合西小学校、清水小学校
１月１８日	田迎南小学校、月出小学校
１月１９日	田迎小学校、飽田東小学校
１月２０日	桜井小学校、東町小学校
１月２３日	中島小学校

③ 内容

ア 相談及びヒアリング調査

対象校の校長先生・担当教諭からの社会体育移行に関する相談対応及びヒアリングの実施

イ 情報の提供

校内向けの説明会及びＰＴＡ役員向けの説明会での資料提供及び校区近辺のクラブチーム（バレーボール・サッカー）の情報提供

④ 課題【抜粋】※学校とのヒアリングで寄せられた相談内容

ア 指導者に関するもの 14件

- ・部活動の時間帯に対応できる指導者はいないのではないか。また、指導者が高齢だと新しい指導法や考え方を受け入れてもらえず、子どもたちへの指導が難しくなるのではないか。
- ・例えば、NPO等が専門的な指導者を派遣してくれるとやりやすい。
- ・地域の中にも声かけしていないだけで、退職された方など指導者候補はいるのかもしれない。

イ 受け皿に関するもの 8件

- ・総合型地域スポーツクラブは活発に活動しており、小学校体育館の予約もよく入るが、受け皿としての話は特にした事はない。
- ・受け皿として、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブの活用が挙げられているが、学校現場では、まだ、地域のスポーツ環境、組織などの知識が少ないので、それを勉強するところから。情報提供や地域の実情に応じた作り方のアドバイスがほしい。
- ・学校の活動と競技性の高いクラブチームなどで子どもたちの受け皿を作って選択肢を広げたい。
- ・地域の受け皿について情報がほしい。体育協会、総合型クラブなどどこから手を付けてよいかわからない。

ウ 移行の説明に関するもの 6件

- ・保護者からは、スポーツクラブと社会体育（校区内）は何が違って、どうやったら移行できるのかという意見があった。社会体育移行の手引き等はないのか。
- ・社会体育化するために、学校としてどのような準備をしなければならないかがわからない。
- ・地域にあった移行の形として、多くの事例を情報提供してほしい。

エ その他

- ・クラブチームの活動だと、時間帯が遅くなったり、経済的負担、送迎の問題、競争が過熱したりした時に子供たちが抱える精神的ストレスなど不安である。
- ・経済的なことや送迎などと考えると、校区内の社会体育に移行できればよい。
- ・保護者としての運動部活動のメリットの1つに、学校の活動が終わりそのまま同じ敷地内で夕方から活動できる事があると思うが、時間帯や活動場所など社会体育で対応は可能なのか。
- ・社会体育に移行すると活動時間帯が遅くなることも考えられるが、外での活動は、照明がないなどハード面の課題もあると思うがどう考えるか。
- ・学校の職員は居住地域ではないので、あまり地域の事はわかっていない。
- ・総合運動部かクラブチーム（競技性を求める）か選択出来る保護者・児童はよいが、その中間層への対応が課題。

(3) 課題抽出アンケートの実施

① 実施期間

平成29年3月16日～24日

② 調査対象者

相談業務を実施した対象校の小学校教員及び新4年生から6年生の保護者

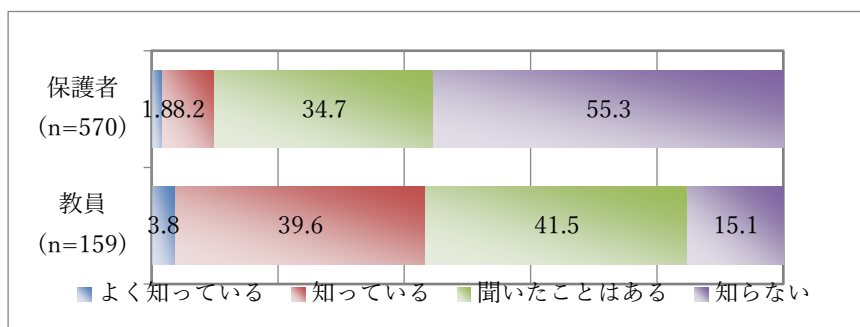
③ 配付及び回収数

教員 159 / 350人 45.4%
保護者 576 / 2,211人 26.1%

④ アンケート結果

問1 スポーツ少年団について知っていますか。

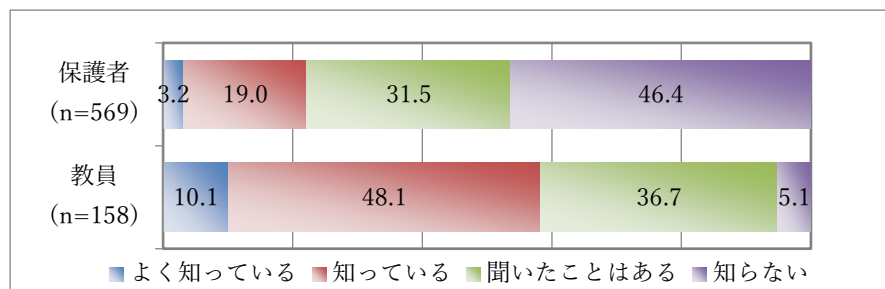
上段:人数 下段:%		合計	よく知っている	知っている	聞いたことはある	知らない
対象	保護者	570 100.0	10 1.8	47 8.2	198 34.7	315 55.3
	教員	159 100.0	6 3.8	63 39.6	66 41.5	24 15.1



※スポーツ少年団については、保護者では55.3%が「知らない」と回答した。
一方、教員は「よく知っている」(3.8%)、「知っている」(39.6%)、「聞いたことはある」(41.5%)であり、スポーツ少年団を知っている人が多かった。

問2 総合型地域スポーツクラブについて知っていますか。

上段:人数 下段:%		合計	よく知っている	知っている	聞いたことはある	知らない
対象	保護者	569 100.0	18 3.2	108 19.0	179 31.5	264 46.4
	教員	158 100.0	4 2.5	16 10.1	76 48.1	58 36.7

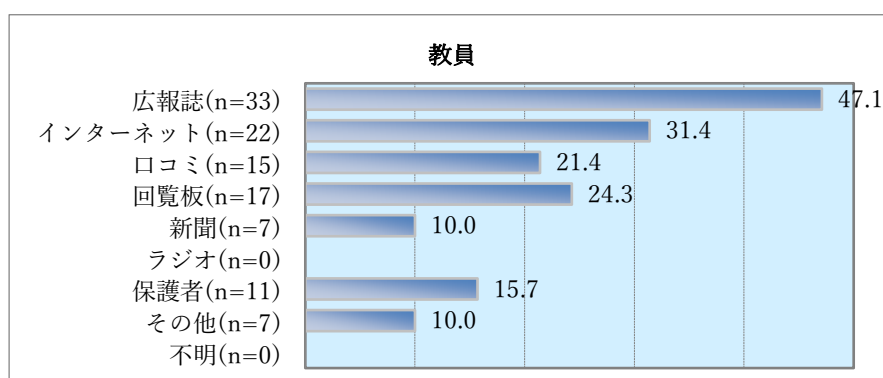
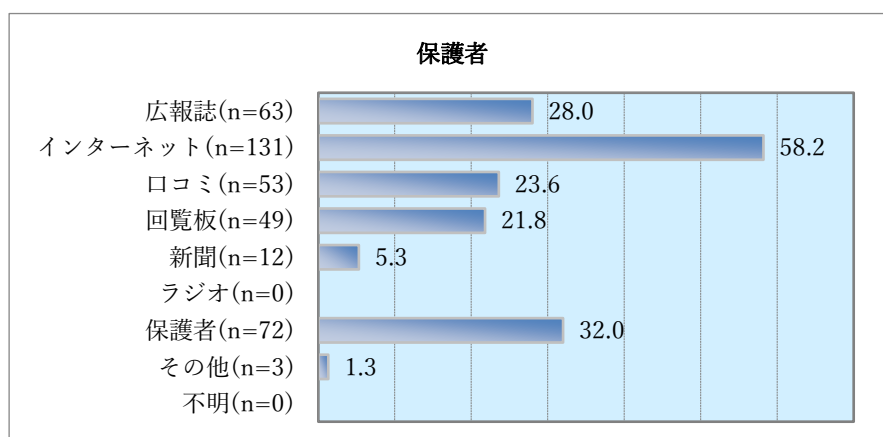


※総合型地域スポーツクラブについては、保護者は46.4%の方が「知らない」と回答し、次いで多かったのは「聞いたことがある」で31.5%だった。一方、教員は「よく知っている」(10.1%)、「知っている」(48.1%)であり、総合型クラブの事を知っている人が多かった。

問3 社会体育の情報を得る手段をお持ちですか。

上段:人数 下段:%		合計	ある	ない
対象	保護者	563 100.0	225 40.0	338 60.0
	教員	159 100.0	70 44.0	89 56.0

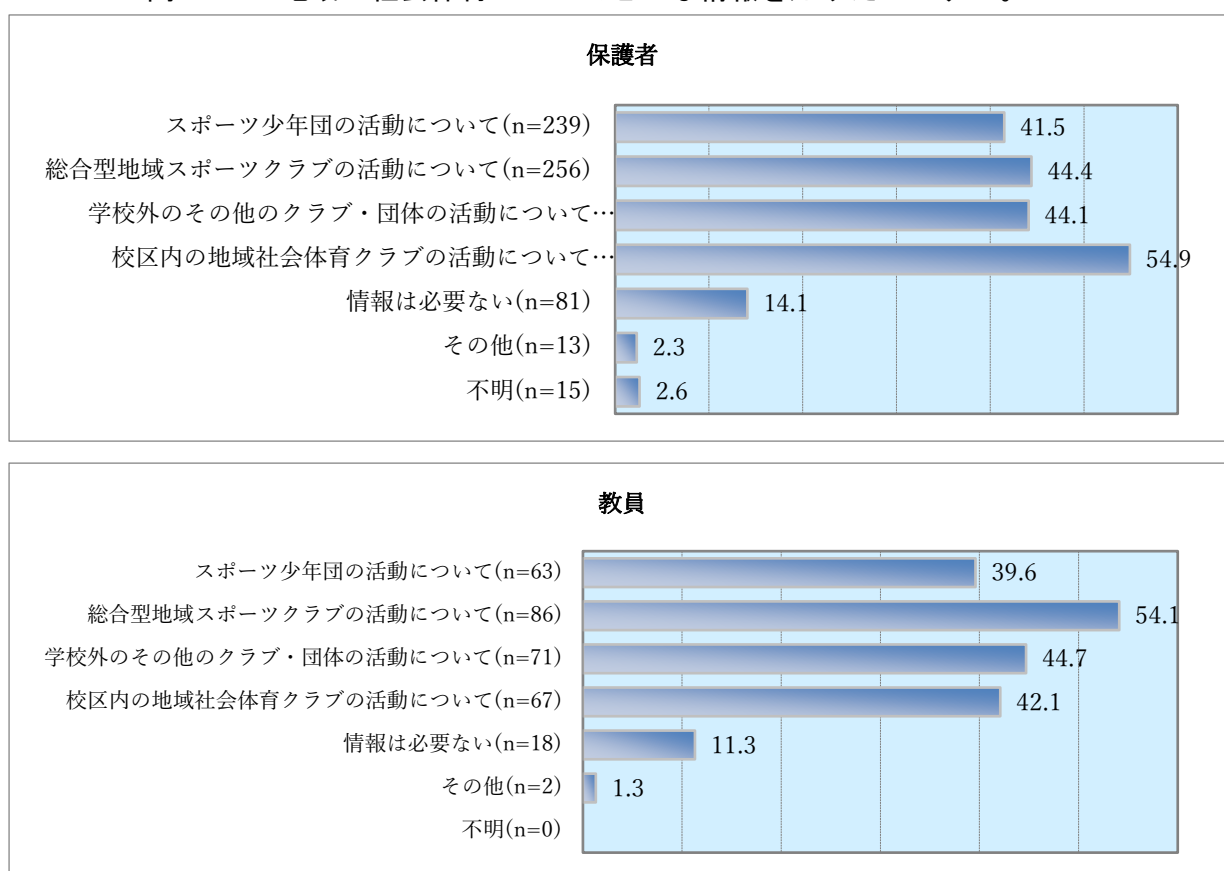
問3-2 「ある」と回答した人にお聞きします。あなたが社会体育の情報を得る方法は何ですか。



※社会体育の情報を得る手段については、保護者は60.0%、教員は56.0%が「ない」と回答した。

※「ある」と回答した人に、社会体育の情報を得る手段を聞いたところ、保護者は、「インターネット」が58.2%で最も多く、次いで保護者が32.0%だった。教員は、「広報誌」が47.1%で最も多く、次いで「インターネット」が31.4%となっている。

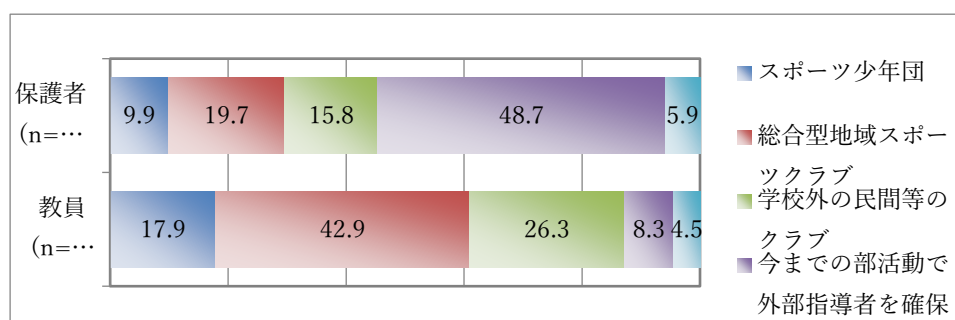
問3-3 地域の社会体育についてどんな情報を知りたいですか。



※地域の社会体育について知りたい情報については、保護者は「校区内の地域社会体育クラブの活動」についてが、54.9%で最も多く、次いで「総合型地域スポーツクラブ」及び「学校外のその他のクラブ・団体」についてが、約44%となっている。教員は「総合型地域スポーツクラブ」が54.1%と最も多く、次いで、「学校外のその他のクラブ・団体」についてが、44.7%となっている。

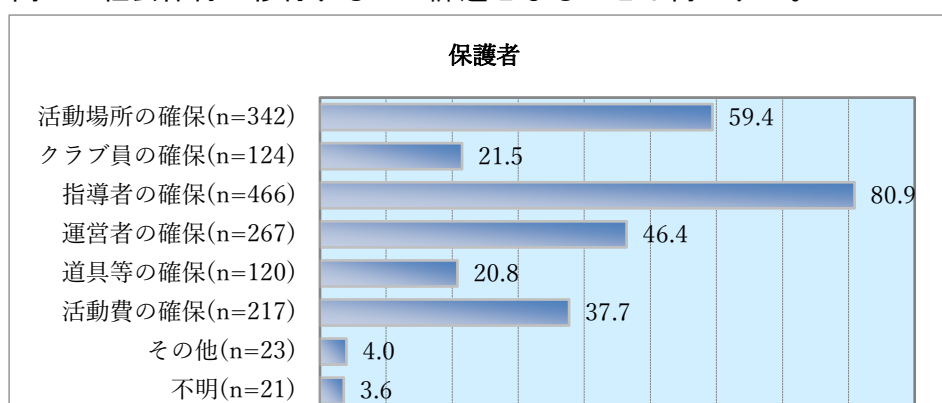
問4 社会体育へ移行するのにどのような団体を希望しますか。

上段:人数 下段:%		合計	スポーツ少年団	総合型地域スポーツクラブ	学校外の民間等のクラブ	今までの部活動で外部指導者を確保	その他
対象	保護者	557 100.0	55 9.9	110 19.7	88 15.8	271 48.7	33 5.9
	教員	156 100.0	28 17.9	67 42.9	41 26.3	13 8.3	7 4.5



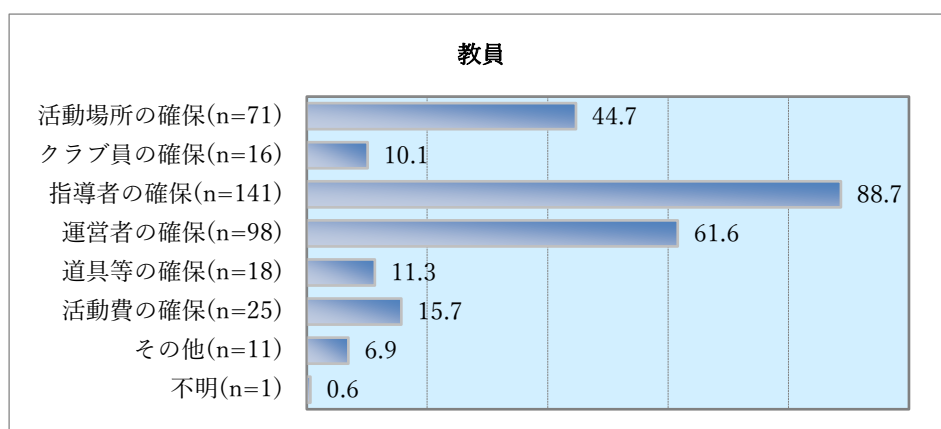
※社会体育移行後の子どものスポーツ活動を担う団体については、保護者と教員で回答に違いが見られた。教員は「総合型地域スポーツクラブ」が 42.9%で最も多く、次いで「学校外の民間等のクラブ」が 26.3%、「スポーツ少年団」が 17.9%であった。一方、保護者は「今までの部活動で外部指導者を確保」が 48.7%と半数近くのにのぼり、次いで「総合型地域スポーツクラブ」が 19.7%、「学校外の民間等のクラブ」が 15.8%と続いた。

問5 社会体育に移行する上で課題となることは何ですか。



その他

- ・ 送迎の有無
- ・ 指導者への謝礼
- ・ 時間（夜より夕方に活動してほしい）
- ・ 方針、教育的な面、人間形成などを部活動で学校の先生が指導するレベルで行えるか など



その他

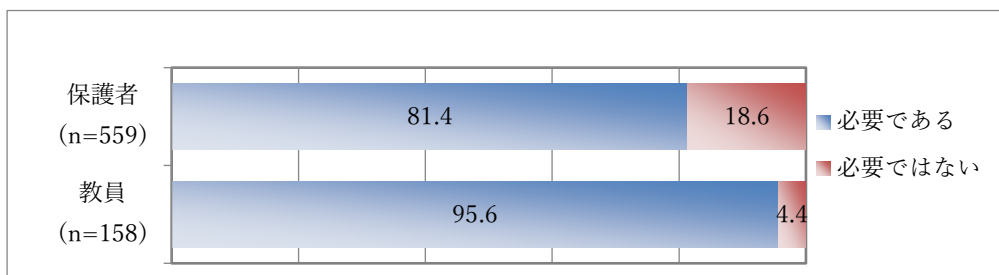
- ・ 子どもの健康・運営費・教育等に配慮した指導のあり方

- ・行きすぎた指導をしない事
- ・児童の活動意欲
- ・子どもたちへの生活指導
- ・保護者の送迎
- ・発達段階に応じた指導、過度の活動によるスポーツ障害 など

※課題については、「指導者の確保」と回答した人が、保護者で80.9%、教員で88.7%最も多かった。次いで、保護者は、「活動場所の確保」が59.4%、「運営者の確保」が46.4%となっている。教員は、「運営者の確保」が61.6%、「活動場所の確保」が44.7%となっている。

問6 社会体育の移行に向けて相談窓口の設置が必要だと思いますか。

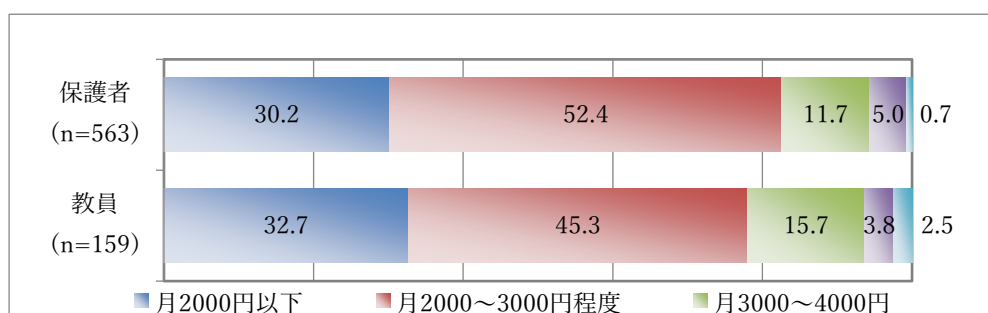
上段:人数 下段:%		合計	必要である	必要ではない
対象	保護者	559 100.0	455 81.4	104 18.6
	教員	158 100.0	151 95.6	7 4.4



※相談窓口の設置については、保護者も教員も「必要」と回答した人が多かった。保護者の回答率は81.4%であり、教員が95.6%と保護者を14.2ポイントも上回った。

問7 会費（部活動費）はいくら必要だと思いますか。

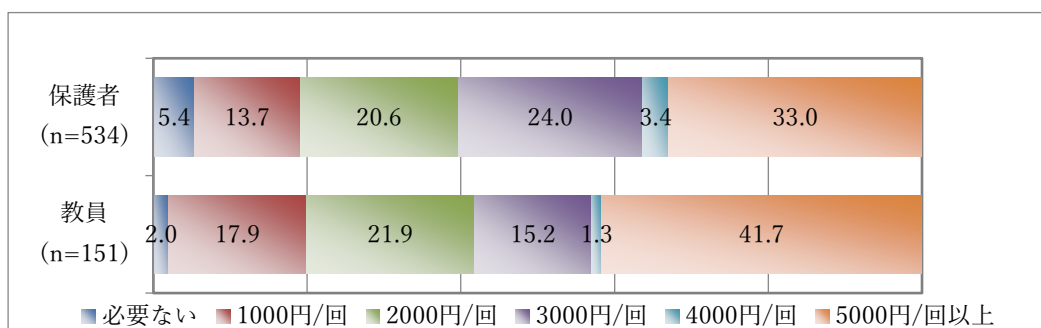
上段：人数 下段：%		合計	月2,000円以下	月2,000～3,000円程度	月3,000～4,000円	月4,000～5,000円	月5,000円以上
対象	保護者	563 100.0	170 30.2	295 52.4	66 11.7	28 5.0	4 0.7
	教員	159 100.0	52 32.7	72 45.3	25 15.7	6 3.8	4 2.5



※会費（活動費）については、「月2,000～3,000円」と回答した人が保護者（52.4%）、教員（45.3%）共に最も多かった。次いで多かったのは保護者では、「月2,000円以下」が30.2%であり、教員も「月2,000円以下」が32.7%だった。

問8 指導者への謝金はどのくらい必要だと思いますか。

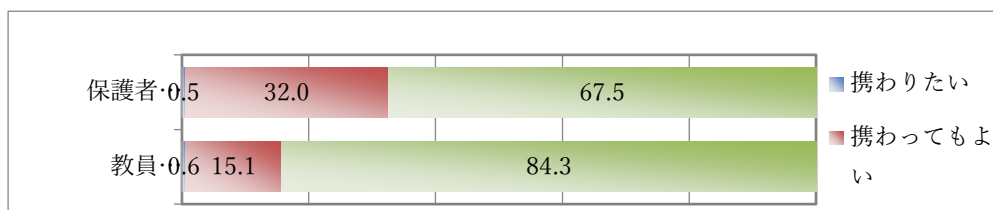
上段：人数 下段：%		合計	必要ない	1,000円／回	2,000円／回	3,000円／回	4,000円／回	5,000円／回以上
対象	保護者	534 100.0	29 5.4	73 13.7	110 20.6	128 24.0	18 3.4	176 33.0
	教員	151 100.0	3 2.0	27 17.9	33 21.9	23 15.2	2 1.3	63 41.7



※指導者への謝金額について、「5,000円/回以上」と回答した人は、保護者（33.0%）教員（41.7%）共に最も多かった。次いで、保護者で多かったのが「3,000円/回」で（24.0%）、教員で多かったのは、「2,000円/回」で、違いが見られた。

問 9 社会体育の運営（指導者や保護者間の連絡調整等）に携わりたいと思いますか。

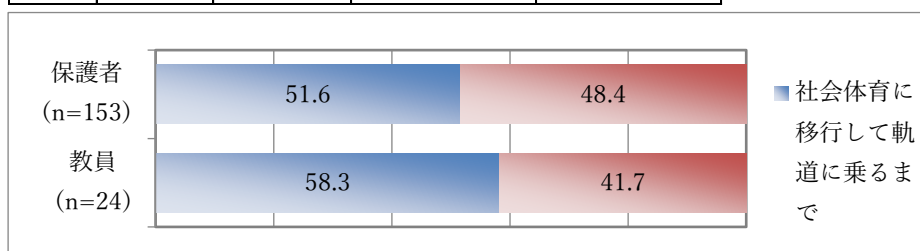
上段：人数 下段：%		合計	携わりたい	携わってもよい	携わりたくない
対象	保護者	569 100.0	3 0.5	182 32.0	384 67.5
	教員	159 100.0	1 0.6	24 15.1	134 84.3



※社会体育の運営については、保護者、教員共に「携わりたくない」という人が半数以上を占め、教員では8割にも上った。保護者で「携わってもよい」という人は32.0%で、教員の15.1%よりも多かった。

問 9-2 社会体育の運営にどのように関わりたいですか（期間）。

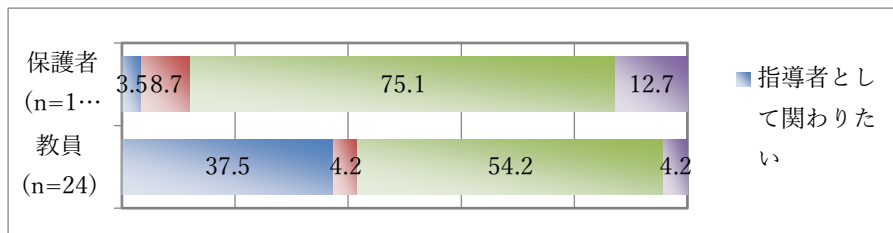
上段：人数 下段：%		合計	社会体育に移行して軌道に乗るまで	社会体育移行後も継続して
対象	保護者	153 100.0	79 51.6	74 48.4
	教員	24 100.0	14 58.3	10 41.7



※社会体育の運営に携わってもいいと回答した人に、協力できる期間を聞いたところ、保護者、教員共に「社会体育に移行して軌道に乗るまで」が約半数を占めた。「社会体育移行後も継続して」と回答した人も保護者で48.4%、教員で41.7%いた。

問 9-3 社会体育の運営にどのように関わりたいですか（役割）。

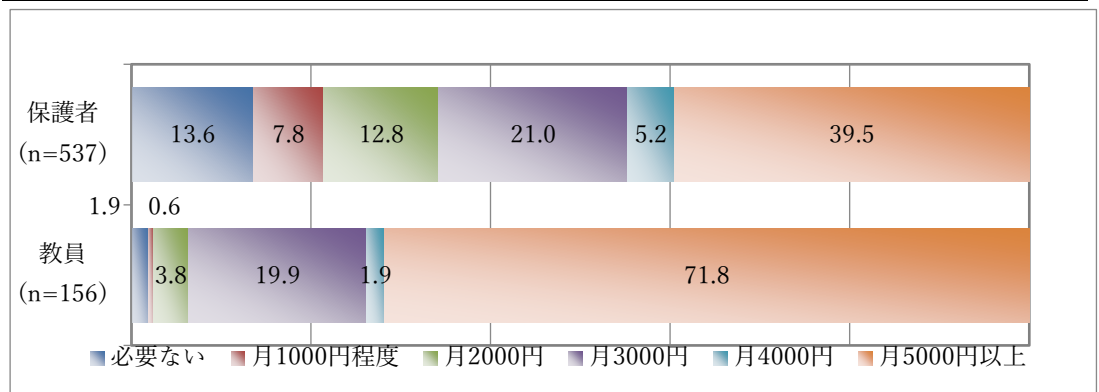
上段：人数 下段：%		合計	指導者として関わりたい	運営者として関わりたい	どちらでもいいがサポート役として	その他
対象	保護者	173 100.0	11 6 3.5	15 8.7	130 75.1	22 12.7
	教員	24 100.0	9 37.5	1 4.2	13 54.2	1 4.2



※社会体育の運営で協力できる内容について聞くと、保護者と教員で回答に違いが見られた。保護者は75.1%が「サポート役として関わりたい」と回答しているのに対し、教員は「サポート役」が54.2%であり、「指導者として関わりたい」が37.5%に上った。

問10 社会体育の運営に携わる人に対してどれくらい報酬が必要だと思いますか。

上段:人数 下段:%		合計	必要ない	月1,000円程度	月2,000円	月3,000円	月4,000円	月5,000円以上
対象	保護者	537 100.0	73 13.6	42 7.8	69 12.8	113 21.0	28 5.2	212 39.5
	教員	156 100.0	3 1.9	1 0.6	6 3.8	31 19.9	3 1.9	112 71.8



※社会体育の運営に携わる人への報酬については、保護者（39.5%）、教員（71.8%）共に最も高額な「月5,000円以上」と回答した人が最多となった。教員は「月5,000円以上」が7割に上り、より多くの人が高額な報酬が必要と答えた。

（4） その他寄せられた意見

【保護者】

<情報共有の必要性>

- ・社会体育の活動を皆が知る事が出来る様、情報の共有。

- ・保護者の協力は特に必要と思いますので、制度移行後の制度周知を早い段階から行ってもらいたい。

＜指導者（謝礼含む）・費用＞

- ・まずは、資金に対しての運営費、謝金がどのくらい可能なのか等の検討も必要ではないかと思います。後々金額を下げることは難しいと思うのでまずはボランティア可能な方を集ったり依頼したりと最低ラインの所から始めていければと思います。
- ・指導者は1人ではなく複数の方が良いが、確保がとにかく難しい。また、指導者が増え謝金が増えても厳しい。どんな活動をしていて、どんな指導方針なのか分からないと訪ねにくい。
- ・本格的に軌道に乗るまでは、学校からのサポート（先生）を立てながら、共に指導者をさがし、子ども達の勉強以外の育成に参加して欲しい。
- ・現在の学校の部活に対して、放課後の先生方の指導、休日の指導など、負担は大きいと思います。保護者も先生に対して（先生だから当たり前）の考えの人が多く早くこの問題は解決した方が良いでしょう。
- ・会費が高額となれば参加者が減ると思う。運営費等各チーム統一できたらいいと思う。指導者の確保が一番難しいと思う。
- ・外部の指導者の人格的問題がニュースによくでている。指導者養成は一朝一夕にできるわけではないので外部は高校ぐらいからではいいのでは。
- ・主人はスポーツをしていてボランティアなどで指導にかかれたらと話していましたが時間の問題ですが、スポーツをされている方で指導にかかわりたいと考えている方もいらっしゃると思います。
- ・外部指導者を確保する制度が必要。
- ・運動も大切だが小学生の間は遊ぶ時間や基礎学力の時間もきちんと確保してほしい。外部指導者は、その辺のことが甘いと思われる。部活動に集中しすぎる面がある。
- ・民間クラブ活用が必須ではないかと思う。先生方の負担軽減のためにも外部のプロの指導者が必要。
- ・なじむまでは、理解度に差が出たりして大変だと思います。費用の面で負担になって入部させられない家庭もあるかもしれないし、課題はあると思います。
- ・子供たちにはスポーツなどをさせてあげたい。クラブチームなどは送迎が大変、月謝も高い。

＜時間帯・送迎の負担＞

- ・校庭以外の場所で実施する場合は、送迎が必要となると共働き家庭の子は参加が難しくなると思います。
- ・放課後校門から出ずに、校内で部活ができることが、仕事を持つ親として、安心なのですが、子1人で部活の荷物を抱えて暗い道を帰宅させるのなら、スポーツは、無理にしなくても良い気がします。

- ・校区外など、実施場所が遠方の場合、送迎などの負担がかかる為、できるだけ校区内で複数の種目のスポーツなどができたらいいなと思います。

＜部活動に求めるもの＞

- ・部活動に求めているのは運動の機会。社会体育へ移行することで、運動が苦手な子どもが参加しづらい環境にならないよう配慮をお願いしたい。
- ・さまざまな種類の活動があったほうがいいと思う。各々の団体の目的目標などを明確にあげて欲しい。
- ・部活がなくなる方向であれば、子供たちが運動できる場があったほうがいいと思います。今は公園で思いっきりボール遊びも出来ない、子供たちの場所が少なくなっているように思います。運動を通して、学ぶこともたくさんあるので、運動が苦手な子でも少しでもかかわりができる環境があったらいいなと思います。
- ・先生方の部活動の負担が大きいのは承知しておりますが、子どもたちが平等にスポーツをする機会を確保できるようみなさんで知恵を出し合っていけたら良いと願っています。

＜その他＞

- ・移行後の責任の在り方。
- ・責任の所在は団体なのか、個人なのか。
- ・発達障害などの支援指導のありかた等。
- ・発達障害児への対応、特性を知り子供たちに寄り添った理解者、知識のある指導者が関わってほしい。障害がある子でも地域で楽しく参加できるようにサポートのある活動の実施。
- ・障害児にも対応できる少人数の活動、支援者がいる環境等も配慮して欲しい。

【教員】

- ・指導者がボランティア的な立場なのは、どうかと思う。きちんと市の職員として養成していくなどが必要なのではないか、又は民間のスポーツ企業を立ち上げるなど。
- ・社会体育移行は現実的に厳しいのではないかと（積極的に運動に関わらないため）、運動する子、しない子がはっきりわかれ運動差は大きくなり教員の体育指導力も低下しているならば、運動ができない子が増える、この問題をどうするのか。
- ・現在ある部をスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブに移行して残そうとしている学校には総合運動部は必要ない。活動場所が重なってできなくなる。
- ・中学校区を中心に平日学校、土日地域人材など長くてもある程度安心できる体制づくりが望ましいと思う。他県のシステムづくりをある程度参考にして、こういう形で作ってくださいなど熊本市の方針を出して欲しい。

- ・部活動の負担を無くし学級の仕事（教材研究等）により力を入れられる体制を整えてほしい。総合運動部では負担軽減にならないと思う。
- ・入部する子供の意識を高めつつ、体力づくりをすすめることができるでしょうか。いろいろな活動を行うと活動によって道具が違ってくる。その準備をすると、経済的負担が大きくなるのではないかと思います。それが理由で、入りたくても入らない子が増え経済的に入部者が激減するのではないのでしょうか。
- ・音楽部も指導するのにかなりの負担があります。
- ・現在の部活動と同じ程度の参加率や活動量を子どもたちに保障できるのか、心配なところがある。また、社会体育になることで逆に子や保護者の負担が大きくなりすぎるということはないのかという不安もある。
- ・社会体育への移行は賛成。しかし県の様子をうわさとして聞く限り、指導者不在で、結局教員にその補充がまわってきているといわれています。夕方16時過ぎから指導ができる人は限られていることは自明です。指導者のなりわいと深くかかわりますので指導者の拡大には相当な時間がかかることだと思います。その対策をどうぞよろしくお願いします。

（５） 他市町村等での取組状況（情報提供）

- ・総合型地域スポーツクラブを充実させる（種目・活動場所。活動時間など）ことで、社会体育の受け皿として確立させる。
- ・総合型地域スポーツクラブの指導者が、外部指導者として指導に当たる。
- ・地域のスポーツ施設の職員やインストラクターが外部指導者として指導に当たる。
- ・指導者派遣ができるネットワーク組織を充実させる。
- ・学校の部活動あり方検討委員会に地域のキーパーソン（スポーツ推進員等）を委員として入ってもらうことで指導者の発掘や確保、情報の共有等ができるようになる。
- ・地域の中でコーディネーターを確立させ、コーディネートできる仕組みを確立させる。